

使われなくなった  
のこぎり屋根工場  
今後を語る座談会

第七回

報告書

のこぎり座

座談会内容

『小さな学び舎』

日時、平成二十九年五月七日

午後一時～五時

場所、野田さんの工場

一宮市竈屋1-10-29

## 第七回のコ座 『小さな学び舎』

日時 平成 29 年 5 月 7 日 13:00 ～ 17:00

場所 野田さんの工場（一宮市籠屋 1-10-29）

13:00 ～ 受付 軍手・マスク配布

13:15 ～ 説明 自己紹介

13:30 ～ 掃除

16:30 ～ 感想 意見（コーヒータイム）

17:00 ～ 後片付け

今回は籠屋八幡社の隣にある野田さんの工場を掃除します。

ここはかつて（昭和 30 年代）4 台の織機が入っていて、女工さんが住み込みで働いた場所です。

ご両親が残されたのこぎり屋根工場と母屋を再生し、小さな学び舎を創りたいという野田さんの想いをお手伝いします。



## 第7回のこ座

- 13:00~ 受付 軍手・マスク配布
- 13:15~ 説明 自己紹介
- 13:30~16:00 掃除
- 16:00~16:30 感想 意見 (アンケート)
- 16:30~17:00 後片付け

- ・床のそうじ
- ・天井のほりおとし
- ・植木鉢の土取
- ・自転車の空気入れ
- ・可燃物 → 黄色の袋
- ・不燃物 → 透明な袋
- ・草むしり



この日は野田さんの教員時代のお仲間、かつての教え子さん達がお集まりになりました。そして野田さんのご友人の娘さんが、皆さんが工場を掃除する映像を撮影しにいらっしやいました。野田さんの掃除計画や準備段取りは完璧でしたので、スムーズに会は始まりました。

まずは大量に放置された植木鉢の整理です。土を庭に捨て、空の植木鉢を並べていきます。この植木鉢で今後ゆっくと植物を育てていくそうです。それに伴って工場内のゴミを集め分別しまとめていきました。

次に梁にたまった埃を落とします。この作業は上を向きながら長いほうきを使って埃を払っていくので、首や腕が疲れるし、埃が目に入るしでなかなか大変です。そして実際に梁の上を見れないので、なかなか成果が確認できないのが辛いところですが、野田さんの工場の梁の上はあまり埃がたまっておらず、比較的綺麗でした。

壁際の床に敷いてあった簀の子、以前どこかで使ってあった梁を、外に運び出し水洗いをしました。その間中では窓拭きを終え、皆で一斉にほうきで床を掃いており、すごい砂埃でした。布と糸と砂が混ざり、なかなか重量のある埃でした。

内部が一段落したので外で洗った簀の子や梁を内部に運び、大量にあった発泡スチロールの箱を、緑のゴミ袋に詰める作業に入りました。いかに効率よく発泡スチロールの箱を崩してゴミ袋に入れていくか、これがなかなか難しいです。





四時頃掃除が一通り終わり、野田さんが用意してくださったお菓子やお茶を皆で囲んで座りました。途中参加の方は自己紹介を含め、今日の感想や意見、これからの動きなど話し合いました。

「広さ、雰囲気、立地がとてもいい。近くに保育園や神社があり、人が集う可能性が溢れている。」

「昨日の前夜祭に加え、今日も子供を連れて掃除に参加した。隣の神社で遊んでいる地元の子達がこちらの様子を見に来て、うちの子供とすぐ仲良しになった。静かですぐ近くに緑もあってとてもいい環境だと思う。」

「この工場を皆で掃除をして、野田さんのお父さんはさぞ喜んでいるだろうと感じ、心がジーンとなった。本当に親孝行な行動だと思う。」

「野田先生の当時の教え子です。建築関係の仕事に就いていて、一度工場の中を見てみたかった。いい経験ができた。」この方の妹さんもいらっしゃって、妹さんも野田さんの生徒だったそうです。

「掃除を通して今まで見たことのないものや、色々な人との出会いがあり、とても良かった。これからも野田先生を応援していきたい。」



映像を撮影して下さった学生さんからは、

「映像を撮っていて工場は絵になるし、光の環境も興味深かった。いいものができると思う。」  
という言葉頂きました。今回の報告書は、彼女たちの映像を後日添えさせていただきます。

今回のこの座では、当時の教え子さんが先生のために集まってくる、そんな野田さんの人望の厚さを感じました。先生と生徒、そして先生同士のつながりが強く残っている野田さんの工場が、これからどんな場所になっていくのか、期待が高まります。

野田さんの今後の動きとしては、当時野田さんの工場で働いていらっしゃった女工さんをお呼びして話を伺ったり、当時の様子を感じられるような映像を上映する予定とのことで、こちらも楽しみです。これからも野田さんとはよい連携をとりながら、工場の可能性を探っていけたらと思います。

平松毛織株式会社 取締役  
平松久典



のこぎり屋根工場の再生に向けて最初のイベントとして行った今回の掃除に、友人、知人、教え子、そして、のこ座のメンバーの方々に参加していただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。あたたかく、いごちよく、のどかな空間で、同世代の横の交流、異世代の縦の交流ができ、日本の文化を継承し、笑顔で元気な地域づくりに寄与できる、和の学び舎「愛の」を、賛同していただける方々の知恵を借りながら、みんなで創りあげていきたいと思っています。

野田 和弥